

# 労使研

「情報」 第46号 2013年10月

## 労使関係研究協会

〒105-0014 東京都港区芝2丁目  
20番12号（友愛会館8階）

電話：03-3453-5386

FAX：03-3451-1710

## 関西支局

〒550-0001 大阪市西区土佐堀

1丁目6番3号

（JAM西日本会館内）

電話：06-6225-2881

◇第69回講演会（友愛労働歴史館・労使関係研究協会共催）が開催されました

## テーマ「友愛会・総同盟と新渡戸稲造」

☆芳賀清明氏を招き、講演会「友愛会・総同盟と新渡戸稲造」を開催、10月15日！



友愛労働歴史館は新渡戸稲造没後80年に当たる10月15日（火）午後、講演会「友愛会・総同盟と新渡戸稲造」を開催しました。講師は労働運動史研究者の芳賀清明氏（仙台在住）で、講演会には友愛労働歴史館および労使関係研究協会の個人会員・団体会員など38名が参加しました。

新渡戸稲造（1862.9.1～1933.10.15）は、教育者・農学者として、また国際連盟事務局次長、さらには『武士道』の著者として広く知られていますが、友

愛会や労働運動との関係は余り知られていませんでした。

芳賀清明氏は、レジュメ「1. 新渡戸稲造の生涯、2. 教育者としての新渡戸稲造、3. 新渡戸稲造と友愛会の労働者教育、4. 新渡戸稲造と日本労働会館建設運動、5. 友愛会＝総同盟運動を支援した人々と新渡戸稲造」に基づき、新渡戸の生涯や友愛会・総同盟との関連について約100分に亘る講演を行いました。

また、芳賀氏は持参した関連資料「新渡戸稲造関連年譜」、「友愛会＝総同盟機関紙・誌に見る新渡戸稲造」、論文「強き人」（友愛会機関誌『労働及産業』・大正5年4月号）、記事「我等が牙城日本労働会館」（総同盟機関誌『労働』・昭和6年10月号）に言及しつつ、講演を進めました。その後、

質疑を行い閉会しました。

今回の講演会「新渡戸稲造」は、開催中の企画展「吉野作造」（2013.03.18～2013.10.31）の一部を模様替えし、新たに「新渡戸稲造コーナー」を設置したことに連動させた企画。講演会参加者の多くが、講演終了後、友愛労働歴史館展示室に立ち寄り、写真や解説パネル、著書や集団肖像画などで構成された「新渡戸稲造コーナー」を見学しました。（詳しい内容については録画しています。労使研までお申し込みください。）





## ◇第6回労働講座が実施されました

### 「生産性向上と全労生の歴史」 ～戦後日本における生産性向上運動と全労生の役割～



労使研第6回労働講座は、全国労働組合生産性会議（全労生）事務局長の西澤昇治郎氏を招き、9月20日（金）午後、友愛会館8階友愛労働歴史館研修室で開催しました。参加者は26人。

1955年、労・使・中立の三者構成による財団法人日本生産性本部が設立され、①雇用の確保・拡大、②労使の協議・協力、③成果の公正配分を内容とする『生産性運動に関する三原則』を打ち

出し、わが国における生産性運動がスタートしました。

この三原則の趣旨に賛同した労働組合は、ナショナル・センターの枠組みを超えて結集。労働組合の生産性運動の推進母体として『全国労働組合生産性会議（略称：全労生）』を設立。この活動はわが国の経済発展を支える原動力となりました。

全労生は産業労働と生産性に関わる諸問題について、①経済活動の把握やこれに対応すべき労働組合の政策についての協議、②構造転換や新たな経済動向に対応する労働組合の方針を深化徹底させるための研究集会、中央・地方討論集会、シンポジウム等の開催、③労働組合相互間の連携と協力関係の促進、④経済・労働情勢に関する継続的な調査・研究活動、⑤社会経済生産性本部と連携した事業活動、などを積極的に推進しています。

#### I. 全国労働組合生産性会議（全労生）について（あゆみ概要）

#### II. 全労生の運動展開における問題意識と活動展開の指針（ガイドライン）

1. 全労生結成50周年宣言について
2. 全労生・50周年宣言の具現化に向けた運動展開の指針（ガイドライン）

#### III. 生産性運動の歴史と労組生産性運動の関わりなどについて

1. 日本生産性本部設立（昭和30年）までの経過について
  - (1) ILOと生産性と日本の関係について
  - (2) 日本の経済団体や政府などの動き
  - (3) 日本生産性本部の発足と組織の変遷
  - (4) 生産性概念と3原則について
2. 日本生産性本部（生産性向上運動）への労働組合の対応
3. 生産性（向上）運動の労組への浸透に
4. 全国労組生産性企画実践委員会の発足と全国労働組合生産性会議への発展

#### IV. 全労生運動の果たした役割について

1. 教育・啓発実践活動の強化
2. 原点（原理・原則・前提）を重視した運動の展開
2. 運動の組織的展開と発信力の強化・社会的対話の促進



（詳しい内容については録画しています。労使研までお申し込みください。）

## ◇第7回労働講座（関西）が実施されました

### 新たなる挑戦・連合大阪結成を語る



労使研第7回労働講座を、10月8日（火）午後2時よりJAM西日本会館6階の講堂で開催いたしました。

今回の労働講座は関西支局初の労働講座で、元ゼンキン連合（現JAMの前進）大阪の執行委員長、大阪同盟の会長も務めら

れ、連合大阪の結成に多大の尽力をされた、初代会長の石原利昭氏迎えての開催となりました。

当日は、石原さんの講演会と云うことで、56名もの参加があり、ゼンキン連合で同時に活躍されていた、小出労使研会長も参加され、冒頭労使研を代表して、関西でも労働運動に貢献された、先輩の活動記録を是非残していきたいと挨拶されました。

講演では、労働団体にとって悲願であった全的統一が、1980年代後半になぜ成し遂げられたのか、その当時の社会、経済、政治情勢等の背景について詳しく述べられました。当時、ニクソンショック、オイルショック、プラザ合意等、相次ぐ外圧による、経済的、社会的な激震が、我が国を揺さぶり、労働者、労働組合にとって社会の仕組みを変えないと、労働者の生活を守れないとの認識の一致が、統一の大きな原動力となり、連合大阪の結成に結びついた、と。

このオイルショック等、当時を経験した参加者は、トイレットペーパー騒動を懐かしく思い出し、若い組合員は、そのような時代背景のもと、統一が進められ、今日に至っているのだと理解を深めました。

また、この統一された連合大阪が、知事選挙等で中心的な役割を果たしたこと、社会の改革には労働者、労働組合の結集が大きな力を発揮すること、今日の政治情勢に対しても、政権奪回には、労働組合が中心となるぐらいの気持ちが必要であると叱咤激励され、講演会は成果をあげて終了しました。



（詳しい内容については録画しています。労使研までお申し込みください。）